

## 2016 年度活動報告 CJP 授業： インディペンデントスタディ 会話・聴解 3

小原 俊彦（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. クラス概要

本クラスは2016年度秋学期レベル2～3の学生を対象とし、週3コマ行われた。受講した学生は8名で、全員が秋学期レベル2の学生であった。クラス目標は、「カジュアルな会話とフォーマルな会話の違いを学び、会話相手によって適切なスタイルの使い分けができるようになる」、「事実とともに感想をわかりやすく伝えることができるようになる」、「日常生活の中で必要な情報を聞き取ることができるようになる」であった。教科書は『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編1』であった。

### 2. 授業内容

全員に共通の課題として、1回の授業で教科書を1課ずつ学習し、モデル会話の中から好きなフレーズを一つ選ばせた。各自で選んだフレーズは教師が選んだ別のフレーズ一つとともに自宅でCDの音声を聞きながら練習し、次の授業の最初に発表させた。それ以外は、会話・聴解に関連する学習であれば教科書以外の教材・素材を自由に使用してもよいこととした。

各回の流れは、①フレーズの発表、②その日の計画立て、③各自の学習、④その時間の学習の振り返り、というものであった。ほとんどの学生は教科書を中心に学習していたが、学期終盤には、日本のアニメや映画等の自分で選んだ素材で聞き取りや話し方の練習をする学生が増えた。教師は学生の学習内容にコメントせず、一方で質問は自由にさせた。

### 3. 成果と今後の課題

最終日に行ったアンケートでは、回答者6名中4名が「満足」、2名が「まあまあ満足」と回答した。その主な理由としては、学習の自由度が高かったことが記述回答からうかがえる。しかし一方で、インディペンデントスタディでは教師が各学生の学習に介入しないことが前提とされていたため、クラス目標を踏まえた各自の目標設定の妥当性や学習方法の適切性、自己評価の適切性が不問にされ、インディペンデントスタディが次学期以降の学習にどのようにつながるのかが不明のままに終わった。その点がインディペンデントスタディの大きな課題であろう。